

# グローバル厳選株式ファンド

## 運用報告書（全体版）

第3期（決算日 2022年8月22日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。  
「グローバル厳選株式ファンド」は、2022年8月22日に第3期の決算を行いましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2019年8月28日から無期限です。
運用方針	日本を含む先進国および新興国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の積極的な成長を図ることを目指して運用を行います。
主要投資対象	RMグローバル厳選株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とします。
主な投資制限	①株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ②投資信託証券（マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ③外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等を分配対象額とし、原則として基準価額の水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

### <照会先>

電話番号：0120-223351

（委託会社の営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ：<https://www.resona-am.co.jp/>

りそなアセットマネジメント 株式会社

東京都江東区木場1丁目5番65号

## 【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ○設定以来の運用実績

決算期	基準価額				MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース)		株組入比率	純資産額
	(分配落)	税分	込配	み金	期騰落	中率		
(設定日)	円						%	百万円
2019年8月28日	10,000		—	—	110,291.26	—	—	500
1期(2020年8月20日)	13,356		0	33.6	128,727.59	16.7	99.0	667
2期(2021年8月20日)	19,021		0	42.4	171,088.18	32.9	98.8	951
3期(2022年8月22日)	18,416		0	△ 3.2	196,029.65	14.6	98.3	1

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額（元本＝10,000円）です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに委託会社が円換算して計算したものです。MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を含む先進国および新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc. に帰属します。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース)		株組入比率
	騰落率	騰落率			
(期首)	円	%		%	%
2021年8月20日	19,021	—	171,088.18	—	98.8
8月末	19,768	3.9	176,132.66	2.9	76.4
9月末	19,560	2.8	173,235.71	1.3	97.1
10月末	20,447	7.5	184,230.65	7.7	98.2
11月末	20,570	8.1	182,471.49	6.7	96.4
12月末	21,192	11.4	189,269.44	10.6	98.0
2022年1月末	17,981	△ 5.5	177,237.11	3.6	97.7
2月末	17,954	△ 5.6	175,998.25	2.9	97.6
3月末	19,073	0.3	192,981.61	12.8	97.0
4月末	17,431	△ 8.4	184,550.59	7.9	97.9
5月末	17,060	△ 10.3	185,069.85	8.2	97.1
6月末	16,281	△ 14.4	181,650.86	6.2	97.3
7月末	17,430	△ 8.4	187,155.28	9.4	98.2
(期末)					
2022年8月22日	18,416	△ 3.2	196,029.65	14.6	98.3

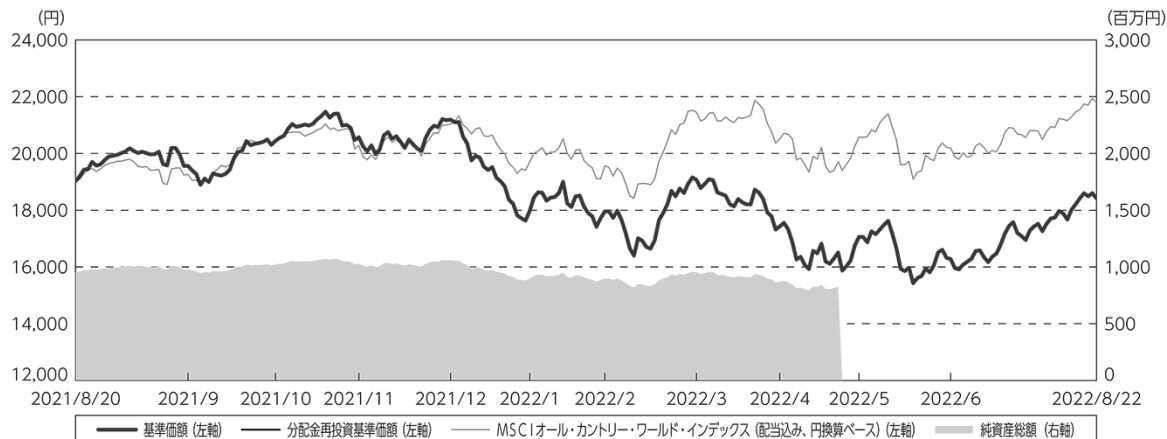
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

## ○運用経過

(2021年8月21日～2022年8月22日)

## 期中の基準価額等の推移



期首：19,021円

期末：18,416円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率：△ 3.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、期首(2021年8月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、円換算ベース)は当ファンドの参考指数です。
- (注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに委託会社が円換算して計算したものです。MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(米ドルベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を含む先進国および新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc.に帰属します。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の変動要因

マザーファンドを通じて投資を行った結果、当ファンドの基準価額は前期末19,021円から当期末18,416円となり、605円の値下がりとなりました。

国内株式市場および海外株式市場(円換算後)全体は上昇したものの、欧米主要国での金利上昇を機に、当ファンドが投資対象とするグロース株の株価調整が急速に進んだことがマイナスに影響しました。

## 投資環境

### グローバル株式市況

グローバルの株式市場（現地通貨建て）は、前期末と比較して下落しました。期前半は、低金利環境や新型コロナウイルスワクチン接種進展に伴う経済活動正常化がグローバルの株式市場を下支えしました。2022年に入ると、主要国中央銀行がインフレ抑制姿勢を強めるなか、金利先高観の強まりを背景に大型成長株を中心にグローバルの株式市場は大幅に下落しました。その後も、ウクライナ情勢の先行き不透明感が残るなか、インフレ高進、サプライチェーンの混乱、資金調達コストの上昇など企業活動にかかる悪材料が重なり、グローバルの株式市場は下落幅を拡大しました。

### 為替市況

前期末と比較して、円は米ドル・ユーロの双方に対して、円安となりました。

米ドルに対して、米国における高インフレ環境の長期化懸念からFRB（米連邦準備制度理事会）による金融政策正常化加速を織り込み、一時1998年以来となる1米ドル＝138円台まで円安米ドル高が進行しました。

ユーロに対して、ウクライナ侵攻に対するロシアへの経済制裁が欧州の経済活動へ与える影響が懸念され、一時円高ユーロ安が進む場面が見られました。その後は、金融市場でECB（欧州中央銀行）による利上げ時期の前倒し予想が強まり、円安ユーロ高が進行しました。

新興国通貨は円に対しては上昇したものの、米ドルに対しては下落しました。地域別では、ブラジルなどの南米諸国では利上げ進行や資源高などの影響から米ドルに対して上昇しました。期末にかけて、中国では厳格なゼロコロナ政策継続による景気見通し悪化懸念などが意識されるなか、米ドルに対して元安が急速に進行する場面が見られました。

## 当ファンドのポートフォリオ

### 当ファンド

RMグローバル厳選株式マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行いました。

なお、実質組入外貨建資産については、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行っておりません。

### RMグローバル厳選株式マザーファンド

国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選して投資を行いました。

当期のファンドの基準価額に影響を与えた主な投資銘柄は以下のとおりです。

### <プラス要因>

#### ■ ワイズテック・グローバル（豪州）

同社は、物流面での課題解決を支援するソフトウェア企業で、グローバル物流システムの効率化およびDX（デジタル・トランスフォーメーション）化を推進することで業績を拡大してきました。既存の物流システムは分業やカスタマイズを前提としたシステムとなっており、部分最適を目指すことが物流業界の常識でした。そのような中でグローバル物流時代の到来を見据えた同社は、物流を大きなシステムとして俯瞰し、全体最適を目指すグローバルシステムの設計を支援してきました。顧客が抱える課題に対して、深い洞察に基づいたソ

ソリューションを提供することで顧客を拡大し、今では18,000以上の物流企業等が同社のソフトウェアを利用しています。当ファンドでは、今後も同社がグローバル物流システムの変革を推し進めていくことで、更なる成長を実現することに期待し、投資を継続しています。

当期は欧米主要国での金利上昇を機に、ここ数年来の株価上昇が続いていたグロース株からバリュース株への資金シフトが急速に進むなどグロース株にとって厳しい相場環境となりましたが、同社は売上高の大幅な増加と着実なコスト削減の効果で想定以上の好業績を計上したことで、株価は堅調に推移しました。

### <マイナス要因>

#### ■ ペプチドリーム（日本）

同社は、次世代の創薬化合物として大いに期待されている特殊ペプチドの量産技術を世界でほぼ唯一実用化した企業で、独自の創薬プラットフォームを製薬会社に提供しています。特殊ペプチドは、現在の医薬品の主流である「抗体医薬品」が持つ病原であるターゲットタンパクへの結び付きやすさと、「低分子医薬品」が持つ製造や服薬のしやすさなどとの両立の可能性によって注目されています。同社は特殊ペプチド製造に関する特許の殆どを保有しており、高度な技術力と高い参入障壁から世界の製薬会社は同社とのアライアンス（業務提携）を選択せざるを得ない状況にあります。創薬共同開発、技術ライセンス、自社創業に加え、周辺分野にも事業を拡大することで業績を伸ばしており、次世代創薬分野での中心企業として長期的に評価が高まっていくものと期待しています。

コロナ禍が長引くなかで医薬品業界での臨床や創薬研究活動がスローダウンする懸念が強まっていますが、実際に提携先の臨床入りが想定よりも遅れたことで業績見通しの下方修正が発表され、株価は下落しました。しかしながら、様々な取材を通じて分析した結果、長期的な競争優位性に変化はないと当ファンドでは判断しており、保有を継続しています。

#### ■ アライン・テクノロジー（米国）

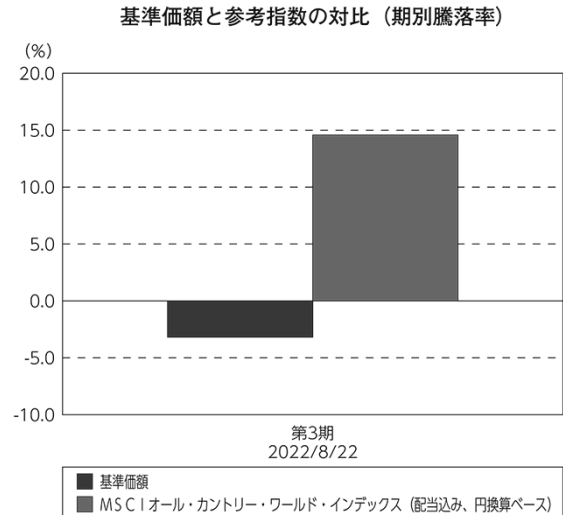
同社は、歯列矯正器具を提供するグローバル企業です。従来のワイヤーによる歯列矯正器具ではなく、透明な樹脂を使った取り外し可能なマウスピース型の矯正器具を扱う、この分野でのトップ企業です。マウスピース型器具は審美性に優れる一方で、当初はワイヤーによる歯列矯正器具と比べて矯正効果に関しては劣っている点が多く見られました。同社は医療機器業界で実績を積んだマネジメントのもと、研究開発によるイノベーションを重ねたことで矯正効果を大きく向上させることに成功し、従来型の矯正器具から大きくシェアを獲得することに成功しています。近年においては、患者を適切に治療するのみならず、その担い手である歯科医院の経営をデジタルにより効率化させることにも注力しています。同社のマウスピースは、歯型ではなくデジタルスキャンにより作成され、歯列矯正のシミュレーション結果が即座に反映されるなどDX化と親和性が高いものです。これを中核に、補綴歯科治療（欠損部位を補う治療）用ソフトウェア会社の買収、消費者向け歯科雑貨の販売、ビベラリテーナー（矯正後の歯列保定装置）の発売など継続的なイノベーションと戦略的なM&Aにより歯科領域におけるソリューションの幅を広げています。当ファンドでは、同社が直接の顧客である医師と最終顧客である一般消費者の両方との関係を強化しながら、競合他社に対して優位に立つことで、高成長を持続させることを期待しています。

当期は原材料価格の高騰や中国での新型コロナ感染拡大によるロックダウンの影響に加え、景気減速で消費者需要の減退が懸念されたことで株価は下落しましたが、一過性ものと判断しており、保有を継続しています。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

## 分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額の水準、市況動向等を勘案した上で、分配を見送りとさせていただきます。収益分配にあてなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項目	第3期
	2021年8月21日～ 2022年8月22日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,093

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## ○今後の運用方針

---

### 当ファンド

引き続き、RMグローバル厳選株式マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用を行う方針です。  
なお、原則として、実質組入外貨建資産については、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行いません。

### RMグローバル厳選株式マザーファンド

引き続き、国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選した投資を継続します。

足元ではインフレ懸念の高まりや長期金利上昇、グローバル景気の後退懸念など外部環境の不透明感が一段と高まり、株式相場は今後も不安定な動きが予想されます。

そうしたなか、短期的な相場動向に左右されず、グローバルでの競争に今後も勝ち続ける企業を厳選し、長期で投資を行います。独自の戦略実行プロセス分析（I S D K）を中核とする競争力評価のフレームワークを駆使して投資の確信度を高め、競争力の向上・維持の確度が高いと判断した銘柄を抽出、投資することで、高いリターンの獲得を目指します。

また、新型コロナおよびロシア・ウクライナ戦争を起因とする供給制限、物流混乱、地政学リスクの高まり、インフレ長期化を受けた金利上昇と株式市場の混乱、企業・消費者行動の変化等の状況を注視し、様々な視点から企業の現在および将来の競争力への影響を評価し、必要に応じてポートフォリオの見直しを実施してまいります。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年8月21日～2022年8月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	311	1.659	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(152)	(0.813)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(152)	(0.813)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 6 )	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	43	0.229	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	( 43 )	(0.229)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	8	0.042	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	( 8 )	(0.042)	
(d) そ の 他 費 用	10	0.054	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 8 )	(0.045)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の 送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 2 )	(0.009)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0 )	(0.000)	その他は、ファンドの運営管理にかかる費用等
合 計	372	1.984	
期中の平均基準価額は、18,728円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

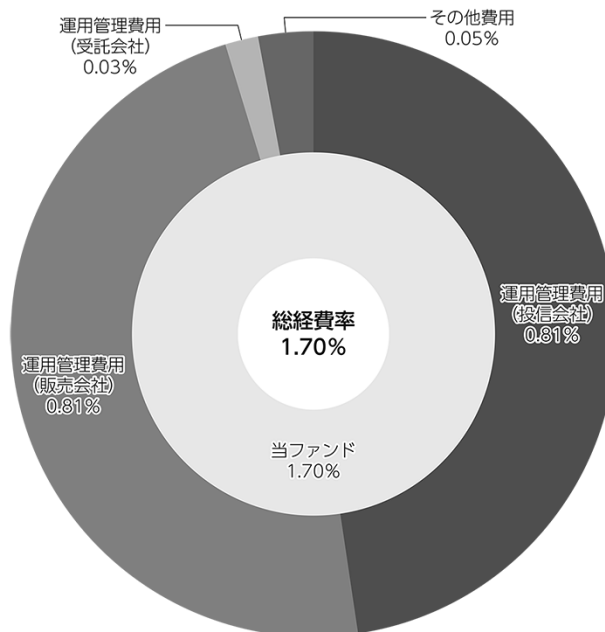
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。



## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.70%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2021年8月21日～2022年8月22日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
RMグローバル厳選株式マザーファンド	千口 -	千円 -	千口 482,596	千円 835,488

## ○株式売買比率

(2021年8月21日～2022年8月22日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	RMグローバル厳選株式マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	12,909,016千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	4,678,238千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.75

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年8月21日～2022年8月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年8月21日～2022年8月22日)

該当事項はございません。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2021年8月21日～2022年8月22日)

期首残高 (元本)	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 (元本)	取引理由
百万円 1	百万円 -	百万円 -	百万円 1	当初設定時における取得

## ○組入資産の明細

(2022年8月22日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
RMグローバル厳選株式マザーファンド	千口 483,532	千口 935	千円 1,839

## ○投資信託財産の構成

(2022年8月22日現在)

項 目	当 期 末	比 率
	評 価 額	
RMグローバル厳選株式マザーファンド	千円 1,839	% 32.9
コール・ローン等、その他	3,744	67.1
投資信託財産総額	5,583	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) RMグローバル厳選株式マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(8,143,643千円)の投資信託財産総額(9,858,190千円)に対する比率は82.6%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=137.17円、1ユーロ=137.55円、1デンマーククローネ=18.50円、1オーストラリアドル=94.37円、1香港ドル=17.48円、1新台湾ドル=4.5679円。

## ○特定資産の価格等の調査

(2021年8月21日～2022年8月22日)

該当事項はございません。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年8月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	5,583,725
コール・ローン等	3,744,248
RMグローバル厳選株式マザーファンド(評価額)	1,839,477
(B) 負債	3,742,129
未払信託報酬	3,722,752
未払利息	10
その他未払費用	19,367
(C) 純資産総額(A-B)	1,841,596
元本	1,000,000
次期繰越損益金	841,596
(D) 受益権総口数	1,000,000口
1万口当たり基準価額(C/D)	18,416円

(注) 当ファンドの期首元本額は500,000,000円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は499,000,000円です。

(注) 当期末の1口当たり純資産額は1.8416円です。

## ○損益の状況 (2021年8月21日～2022年8月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 907
支払利息	△ 907
(B) 有価証券売買損益	12,050,881
売買益	113,953,825
売買損	△101,902,944
(C) 信託報酬等	△ 12,117,450
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 67,476
(E) 前期繰越損益金	909,072
(F) 計(D+E)	841,596
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	841,596
分配準備積立金	909,312
繰越損益金	△ 67,716

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(240円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および分配準備積立金(909,072円)より分配対象収益は909,312円(1万口当たり9,093円)ですが、当期に分配した金額はありません。

## ○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

## ○お知らせ

該当事項はございません。

# RMグローバル厳選株式マザーファンド

## 運用報告書

第3期（決算日 2022年8月22日）  
（2021年8月21日～2022年8月22日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2019年8月28日から無期限です。
運用方針	<p>①主として、日本を含む先進国および新興国の金融商品取引所に上場または店頭登録されている株式*に投資し、信託財産の積極的な成長を目指します。 *上場予定、店頭登録予定を含みます。 *DR（預託証券）もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証券等を含みます。</p> <p>②経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選して投資を行います。</p> <p>③株式の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。</p> <p>④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p>
主要投資対象	・国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式
主な投資制限	・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

りそなアセットマネジメント 株式会社

## 【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース) (参考指数)		株組入比率	純資産額
	円	騰落率	騰落率	騰落率		
(設定日) 2019年8月28日	10,000	—	110,291.26	—	—	百万円 499
1期(2020年8月20日)	13,576	35.8	128,727.59	16.7	99.1	667
2期(2021年8月20日)	19,661	44.8	171,088.18	32.9	98.9	950
3期(2022年8月22日)	19,663	0.0	196,029.65	14.6	98.4	9,858

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額（元本＝10,000円）です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに委託会社が円換算して計算したものです。MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を含む先進国および新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc. に帰属します。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース) (参考指数)		株組入比率
	円	騰落率	騰落率	騰落率	
(期首) 2021年8月20日	19,661	—	171,088.18	—	98.9
8月末	20,444	4.0	176,132.66	2.9	76.4
9月末	20,256	3.0	173,235.71	1.3	97.1
10月末	21,203	7.8	184,230.65	7.7	98.3
11月末	21,361	8.6	182,471.49	6.7	96.4
12月末	22,038	12.1	189,269.44	10.6	98.0
2022年1月末	18,725	△ 4.8	177,237.11	3.6	97.8
2月末	18,720	△ 4.8	175,998.25	2.9	97.6
3月末	19,915	1.3	192,981.61	12.8	97.1
4月末	18,223	△ 7.3	184,550.59	7.9	98.0
5月末	18,138	△ 7.7	185,069.85	8.2	97.5
6月末	17,334	△ 11.8	181,650.86	6.2	97.5
7月末	18,587	△ 5.5	187,155.28	9.4	98.2
(期末) 2022年8月22日	19,663	0.0	196,029.65	14.6	98.4

(注) 騰落率は期首比です。

## ○運用経過

(2021年8月21日～2022年8月22日)

## 期中の基準価額等の推移

## ○基準価額の主な変動要因

基準価額は前期末19,661円から当期末19,663円となり、2円の値上がりとなりました。

国内株式市場および海外株式市場（円換算後）全体は上昇したものの、欧米主要国での金利上昇を機に、当ファンドが投資対象とするグロース株の株価調整が急速に進んだことがマイナスに影響しました。



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一となるよう指数化しています。

## 投資環境

## グローバル株式市況

グローバルの株式市場（現地通貨建て）は、前期末と比較して下落しました。期前半は、低金利環境や新型コロナウイルスワクチン接種進展に伴う経済活動正常化がグローバルの株式市場を下支えしました。2022年に入ると、主要国中央銀行がインフレ抑制姿勢を強めるなか、金利先高観の強まりを背景に大型成長株を中心にグローバルの株式市場は大幅に下落しました。その後も、ウクライナ情勢の先行き不透明感が残るなか、インフレ高進、サプライチェーンの混乱、資金調達コストの上昇など企業活動にかかる悪材料が重なり、グローバルの株式市場は下落幅を拡大しました。

## 為替市況

前期末と比較して、円は米ドル・ユーロの双方に対して、円安となりました。

米ドルに対して、米国における高インフレ環境の長期化懸念からFRB（米連邦準備制度理事会）による金融政策正常化加速を織り込み、一時1998年以来となる1米ドル＝138円台まで円安米ドル高が進行しました。

ユーロに対して、ウクライナ侵攻に対するロシアへの経済制裁が欧州の経済活動へ与える影響が懸念され、一時円高ユーロ安が進む場面が見られました。その後は、金融市場でECB（欧州中央銀行）による利上げ時期の前倒し予想が強まり、円安ユーロ高が進行しました。

新興国通貨は円に対しては上昇したものの、米ドルに対しては下落しました。地域別では、ブラジルなどの南米諸国では利上げ進行や資源高などの影響から米ドルに対して上昇しました。期末にかけて、中国では厳格なゼロコロナ政策継続による景気見通し悪化懸念などが意識されるなか、米ドルに対して元安が急速に進行する場面が見られました。

## 当ファンドのポートフォリオ

国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選して投資を行いました。

当期のファンドの基準価額に影響を与えた主な投資銘柄は以下のとおりです。

### <プラス要因>

#### ■ ワイズテック・グローバル（豪州）

同社は、物流面での課題解決を支援するソフトウェア企業で、グローバル物流システムの効率化およびDX（デジタル・トランスフォーメーション）化を推進することで業績を拡大してきました。既存の物流システムは分業やカスタマイズを前提としたシステムとなっており、部分最適を目指すことが物流業界の常識でした。そのような中でグローバル物流時代の到来を見据えた同社は、物流を大きなシステムとして俯瞰し、全体最適を目指すグローバルシステムの設計を支援してきました。顧客が抱える課題に対して、深い洞察に基づいたソリューションを提供することで顧客を拡大し、今では18,000以上の物流企業等が同社のソフトウェアを利用しています。当ファンドでは、今後も同社がグローバル物流システムの変革を推し進めていくことで、更なる成長を実現することに期待し、投資を継続しています。

当期は欧米主要国での金利上昇を機に、ここ数年来の株価上昇が続いていたグロス株からバリュー株への資金シフトが急速に進むなどグロス株にとって厳しい相場環境となりましたが、同社は売上高の大幅な増加と着実なコスト削減の効果で想定以上の好業績を計上したことで、株価は堅調に推移しました。

### <マイナス要因>

#### ■ ペプチドリーム（日本）

同社は、次世代の創薬化合物として大いに期待されている特殊ペプチドの量産技術を世界でほぼ唯一実用化した企業で、独自の創薬プラットフォームを製薬会社に提供しています。特殊ペプチドは、現在の医薬品の主流である「抗体医薬品」が持つ病原であるターゲットタンパクへの結び付きやすさと、「低分子医薬品」が持つ製造や服薬のしやすさなどの両立の可能性によって注目されています。同社は特殊ペプチド製造に関する特許の殆どを保有しており、高度な技術力と高い参入障壁から世界の製薬会社は同社とのアライアンス（業務提携）を選択せざるを得ない状況にあります。創薬共同開発、技術ライセンス、自社創薬に加え、周辺分野にも事業を拡大することで業績を伸ばしており、次世代創薬分野での中心企業として長期的に評価が高まっていくものと期待しています。

コロナ禍が長引くなかで医薬品業界での臨床や創薬研究活動がスローダウンする懸念が強まっていましたが、実際に提携先の臨床入りが想定よりも遅れたことで業績見通しの下方修正が発表され、株価は下落しました。しかしながら、様々な取材を通じて分析した結果、長期的な競争優位性に変化はないと当ファンドでは判断しており、保有を継続しています。

#### ■ アライン・テクノロジー（米国）

同社は、歯列矯正器具を提供するグローバル企業です。従来のワイヤーによる歯列矯正器具ではなく、透明な樹脂を使った取り外し可能なマウスピース型の矯正器具を扱う、この分野でのトップ企業です。マウスピース型器具は審美性に優れる一方で、当初はワイヤーによる歯列矯正器具と比べて矯正効果に関しては劣っている点が多く見られました。同社は医療機器業界で実績を積んだマネジメントのもと、研究開発によるイノ



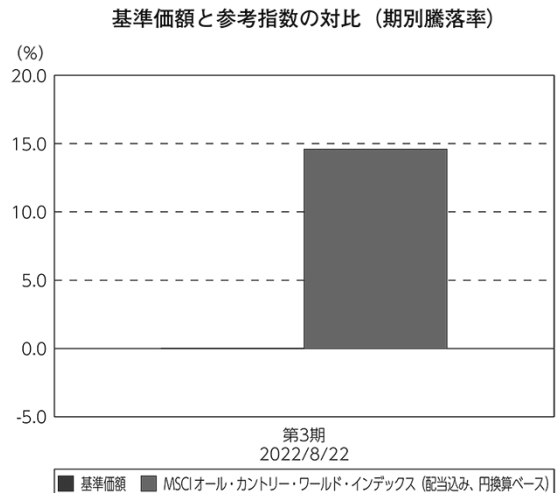
ベーションを重ねたことで矯正効果を大きく向上させることに成功し、従来型の矯正器具から大きくシェアを獲得することに成功しています。近年においては、患者を適切に治療するのみならず、その担い手である歯科医院の経営をデジタルにより効率化させることにも注力しています。同社のマウスピースは、歯型ではなくデジタルスキャンにより作成され、歯列矯正のシミュレーション結果が即座に反映されるなどDX化と親和性が高いものです。これを中核に、補綴歯科治療（欠損部位を補う治療）用ソフトウェア会社の買収、消費者向け歯科雑貨の販売、ビベラリテーナー（矯正後の歯列保定装置）の発売など継続的なイノベーションと戦略的なM&Aにより歯科領域におけるソリューションの幅を広げています。当ファンドでは、同社が直接の顧客である医師と最終顧客である一般消費者の両方との関係を強化しながら、競合他社に対して優位に立つことで、高成長を持続させることを期待しています。

当期は原材料価格の高騰や中国での新型コロナ感染拡大によるロックダウンの影響に加え、景気減速で消費者需要の減退が懸念されたことで株価は下落しましたが、一過性ものと判断しており、保有を継続しています。

### 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



## ○今後の運用方針

引き続き、国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選した投資を継続します。

足元ではインフレ懸念の高まりや長期金利上昇、グローバル景気の後退懸念など外部環境の不透明感が一段と高まり、株式相場は今後も不安定な動きが予想されます。

そうしたなか、短期的な相場動向に左右されず、グローバルでの競争に今後も勝ち続ける企業を厳選し、長期で投資を行います。独自の戦略実行プロセス分析（I S D K）を中核とする競争力評価のフレームワークを駆使して投資の確信度を高め、競争力の向上・維持の確度が高いと判断した銘柄を抽出、投資することで、高いリターンの獲得を目指します。

また、新型コロナおよびロシア・ウクライナ戦争を起因とする供給制限、物流混乱、地政学リスクの高まり、インフレ長期化を受けた金利上昇と株式市場の混乱、企業・消費者行動の変化等の状況を注視し、様々な視点から企業の現在および将来の競争力への影響を評価し、必要に応じてポートフォリオの見直しを実施してまいります。

## ○1万口当たりの費用明細

(2021年8月21日～2022年8月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	54 (54)	0.274 (0.274)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	11 (11)	0.058 (0.058)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	8 (8) (0)	0.040 (0.040) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 その他は、ファンドの運営管理にかかる費用等
合 計	73	0.372	
期中の平均基準価額は、19,578円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2021年8月21日～2022年8月22日)

## 株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上場	千株 399	千円 1,801,794	千株 74	千円 346,433
	アメリカ	百株 2,075 ( 182)	千米ドル 43,241 ( -)	百株 409	千米ドル 8,167
外	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	ドイツ	35	2,267	6	377
	フランス	569	2,398	102	424
	オランダ	42	2,350	6	401
国	デンマーク	420	千デンマーククローネ 20,287	122	千デンマーククローネ 6,471
	オーストラリア	821	千オーストラリアドル 3,915	304	千オーストラリアドル 1,494
	香港	2,594	千香港ドル 25,848	780	千香港ドル 8,184
	台湾	9,450 ( -)	千新台湾ドル 320,734 (△ 5)	2,420	千新台湾ドル 88,369

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) ( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2021年8月21日～2022年8月22日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	12,909,016千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	4,678,238千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.75

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年8月21日～2022年8月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2021年8月21日～2022年8月22日）

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2022年8月22日現在)

## 国内株式

銘柄	株数	期首(前期末)	当 期 末	
		株数	株数	評価額
		千株	千株	千円
医薬品 (37.9%)				
塩野義製薬	4.5	41.6	290,700	
ペプチドリーム	6.6	185.3	311,489	
電気機器 (38.8%)				
日本電産	—	31.8	311,989	
キーエンス	0.5	5.4	303,858	
サービス業 (23.3%)				
エムスリー	4	76.2	369,036	
合 計	株数・金額	15	340	1,587,074
	銘柄数<比率>	4	5	<16.1%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

## 外国株式

銘柄	株数	当期		業種等		
		株数	評価額			
		株数	外貨建金額	邦貨換算金額		
		百株	千米ドル	千円		
(アメリカ)						
DANAHER CORP	10	75	2,207	302,780	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
WALT DISNEY CO/THE	14	209	2,512	344,670	メディア・娯楽	
ECOLAB INC	12	131	2,263	310,490	素材	
AMPHENOL CORP-CL A	41	300	2,377	326,109	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
GARTNER INC	11	83	2,568	352,286	ソフトウェア・サービス	
NIKE INC -CL B	18	198	2,244	307,913	耐久消費財・アパレル	
VISA INC-CLASS A SHARES	11	98	2,090	286,699	ソフトウェア・サービス	
VMWARE INC-CLASS A	16	183	2,236	306,775	ソフトウェア・サービス	
ABIOMED INC	8	74	2,028	278,208	ヘルスケア機器・サービス	
ADOBE INC	5	55	2,339	320,851	ソフトウェア・サービス	
ALIGN TECHNOLOGY INC	4	82	2,235	306,674	ヘルスケア機器・サービス	
ANSYS INC	7	82	2,233	306,410	ソフトウェア・サービス	
AMAZON.COM INC	0.8	181	2,512	344,654	小売	
INTUITIVE SURGICAL INC	3	96	2,163	296,799	ヘルスケア機器・サービス	
NVIDIA CORP	16	126	2,253	309,054	半導体・半導体製造装置	
SVB FINANCIAL GROUP	5	57	2,489	341,492	銀行	
小計	株数・金額	189	2,036	36,756	5,041,872	
	銘柄数<比率>	16	16	-	<51.1%>	
(ユーロ…ドイツ)						
RATIONAL AG	3	32	1,983	272,846	資本財	
小計	株数・金額	3	32	1,983	272,846	
	銘柄数<比率>	1	1	-	<2.8%>	
(ユーロ…フランス)						
DASSAULT SYSTEMES SE	55	522	2,221	305,557	ソフトウェア・サービス	
小計	株数・金額	55	522	2,221	305,557	
	銘柄数<比率>	1	1	-	<3.1%>	
(ユーロ…オランダ)						
ASML HOLDING NV	4	40	2,185	300,663	半導体・半導体製造装置	
小計	株数・金額	4	40	2,185	300,663	
	銘柄数<比率>	1	1	-	<3.0%>	
ユーロ計	株数・金額	63	595	6,390	879,067	
	銘柄数<比率>	3	3	-	<8.9%>	
(デンマーク)						
CHR HANSEN HOLDING A/S	27	325	15,319	283,404	素材	
小計	株数・金額	27	325	15,319	283,404	
	銘柄数<比率>	1	1	-	<2.9%>	
(オーストラリア)						
WISETECH GLOBAL LTD	100	616	3,352	316,398	ソフトウェア・サービス	
小計	株数・金額	100	616	3,352	316,398	
	銘柄数<比率>	1	1	-	<3.2%>	
(香港)						
SHENZHOU INTERNATIONAL GROUP	112	1,926	16,197	283,135	耐久消費財・アパレル	
小計	株数・金額	112	1,926	16,197	283,135	
	銘柄数<比率>	1	1	-	<2.9%>	
(台湾)						
TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	126	1,266	65,705	300,135	半導体・半導体製造装置	
KING SLIDE WORKS CO LTD	202	1,422	66,691	304,641	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
CUB ELECPARTS INC	354	4,634	73,450	335,515	自動車・自動車部品	

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額	
			外貨建金額 千円 邦貨換算金額 千円	
(台湾) VOLTRONIC POWER TECHNOLOGY	百株 58	百株 448	80,550 367,947	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 740	7,770	286,398	1,308,240
	銘柄 数 < 比 率 > 4	4	—	< 13.3% >
合 計	株 数 ・ 金 額 1,232	13,271	—	8,112,119
	銘柄 数 < 比 率 > 26	26	—	< 82.3% >

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

(注) 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

## ○投資信託財産の構成

(2022年8月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 9,699,193	% 98.4
コール・ローン等、その他	158,997	1.6
投資信託財産総額	9,858,190	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産 (8,143,643千円) の投資信託財産総額 (9,858,190千円) に対する比率は82.6%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=137.17円、1ユーロ=137.55円、1デンマーククローネ=18.50円、1オーストラリアドル=94.37円、1香港ドル=17.48円、1新台幣ドル=4.5679円。

## ○特定資産の価格等の調査

(2021年8月21日～2022年8月22日)

該当事項はございません。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年8月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	9,858,190,044
コール・ローン等	158,541,775
株式(評価額)	9,699,193,608
未収配当金	454,661
(B) 負債	345
未払利息	345
(C) 純資産総額(A-B)	9,858,189,699
元本	5,013,697,771
次期繰越損益金	4,844,491,928
(D) 受益権総口数	5,013,697,771口
1万口当たり基準価額(C/D)	19,663円

(注) 当ファンドの期首元本額は483,532,058円、期中追加設定元本額は5,312,109,542円、期中一部解約元本額は781,943,829円です。

(注) 2022年8月22日現在の元本の内訳は以下の通りです。

- ・グローバル厳選株式ファンド(FoFs用)(適格機関投資家専用) 4,713,611,689円
- ・リソナグローバル厳選株式ファンド(適格機関投資家専用) 299,150,580円
- ・グローバル厳選株式ファンド 935,502円

(注) 当期末の1口当たり純資産額は1.9663円です。

## ○損益の状況 (2021年8月21日～2022年8月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	36,943,947
受取配当金	37,054,985
受取利息	16,222
その他収益金	9,803
支払利息	△ 137,063
(B) 有価証券売買損益	829,827,230
売買益	1,607,525,553
売買損	△ 777,698,323
(C) 保管費用等	△ 2,016,646
(D) 当期損益金(A+B+C)	864,754,531
(E) 前期繰越損益金	467,118,966
(F) 追加信託差損益金	4,167,660,458
(G) 解約差損益金	△ 655,042,027
(H) 計(D+E+F+G)	4,844,491,928
次期繰越損益金(H)	4,844,491,928

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ○お知らせ

該当事項はございません。